

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 3 月 31 日現在

機関番号：14602

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520244

研究課題名（和文）キリスト教世界における子供の殉教研究—近代英国を中心に—

研究課題名（英文）Children and Martyrologies in the Christian World

研究代表者 齊藤 美和 (SAITO MIWA)

奈良女子大学・人文科学系・准教授

研究者番号：90324962

研究成果の概要（和文）：本研究は、近代英国を中心に西洋における殉教観を、特に子どもに着目して多角的に探ることを目的とし、児童書における殉教者たちの描かれ方を文学に限らず伝記、宗教書、教育書など幅広い領域の文献に追い、何が殉教者に対する熱狂を生み、また幼少期の読者にどのような影響を与えたかを考察することを通じて、殉教という死のスタイルが西洋人の心を捉え続け、いかにその精神形成に深く関わってきたかを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In examining the idea of martyrdom in Western society, especially in modern England, the study has researched a broad range of modern publications aimed at infant readers from literary works, biographies, religious writings, through to school textbooks, revealing how the style of death called martyrdom had captured children's hearts and influenced the Christian mindset through the ages.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	300,000	90,000	390,000
2012年度	200,000	60,000	260,000
年度			
年度			
総計	1,000,000	300,000	1,300,000

研究分野：英文学

科研費の分科・細目：英米・英語圏文学

キーワード：殉教・伝記(自伝)・児童書・近代英国・ジョン・フォックス

1. 研究開始当初の背景

(1) 9. 11以降、パレスチナ報道などを通じてイスラム教徒による自爆テロの脅威と、女性そして幼い子どもまでも殉教へと駆り立てるイスラム社会の歪みがメディアによって繰り返し報じられているが、キリスト教世界においても、殉教者がキリスト教徒の鑑と讃えられ、児童のしつけにも殉教者のイメージが積極的に利用されてきた長い歴史があることに着目したい

と考えた。

(2) これまで、西洋の殉教についての研究は、Thomas More のような一個人、あるいは John Foxe, *Acts and Monuments* のような一著作を対象にした個別研究が中心であったが、Brad S. Gregory, *Salvation at Stake: Christian Martyrdom in Early Modern Europe* (1999) のようなカソリック／プロテ

スタント両側からの包括的研究、S.B.Monta, *Martyrdom and Literature in Early Modern England*(2005)といった殉教の文学的表象についての研究、また、ジェンダーの視点から女性殉教者に焦点を合わせた M.L.Hickerson, *Making Women Martyrs in Tudor England*(2005)など、殉教という概念そのものを対象とした研究が、近年、ようやくなされ始めてきた。しかしながら、上記の研究書からもわかるように、時代的には近代初期に限定されているため、より包括的な研究が必要であると考えた。

(3) 殉教は、自殺の一つの形態とも考えられてきた。齊藤(研究代表者)は、西洋における自殺観を十年以上にわたり、研究テーマの一つとしてきた。この研究の過程において、実際に処刑場で殉教を目の当たりにした体験以上に、西洋人の殉教のイメージは、殉教についての言説や表象を通じて形成されてきたことが明らかになり、殉教者伝を取り上げ研究することの必要性を認識した。

(4) 児童書として殉教者伝を考察することで、子どもを教育する過程でどのように殉教者についての言説が利用されてきたか、そしてそれが子どもの精神形成にどのような影響をもたらしたのかを探ることができると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、近代英国を中心に西洋における殉教観を、特に子どもの殉教に焦点を合わせることで多角的に探ることを目的とし、これまでの殉教研究では顧みられることのなかった児童書・教育書をもその調査の対象とすることで、殉教が近代西洋人の精神形成に与えた影響にまで深く踏み込んだ、独自の研究を展開することをねらいとした。

(1) 殉教者像、特に幼い子どもの殉教者像の形成過程を追い、これが近代英国人/ヨーロッパ人の精神に与えた影響について、研究をまとめる。

(2) 殉教者伝を児童文学としての観点から研究するために、これまでの殉教研究において顧みられることのなかった児童書や教育書等の文献資料の調査・収集・整理を行う。

3. 研究の方法

殉教観の本質を見極めるには近代初期に盛んに戦わされた真の殉教者か偽殉教者かといった表面的議論よりも、西洋人の心の奥底深くに沈殿した殉教のイメージを問題にし、それを形成した言語表象や図像を研究対象とすることこそが重要である。本研究は、British Library およ

び Bodlean Library, Oxford を中心に、まず Opie Collection や教会史関連資料などを所蔵する英国の研究機関や図書館での第一次文献の調査・収集とその整理から始めた。本研究は該当分野である英文学に狭く対象を限定するものではない。殉教についての言説を下の図のように、文学・歴史・宗教の3分野が交叉する領域において捉えることにより、より多角的な研究を試みた。

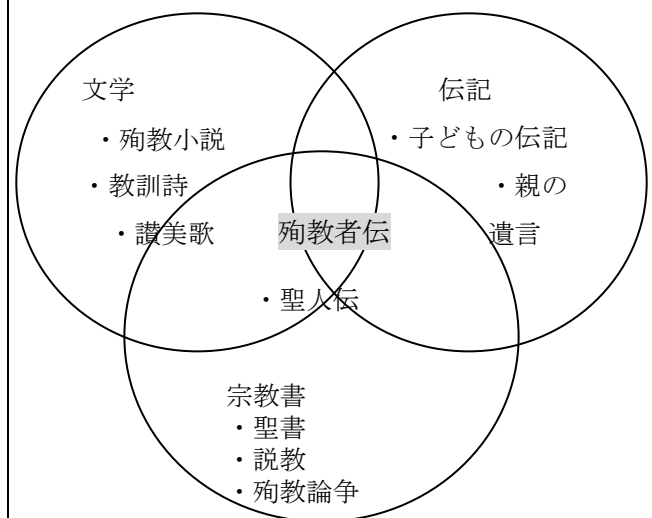
(1) まずは、広範な領域にわたる文献の調査・研究から始めた。

① 子どもの殉教に焦点を絞るにあたり、これまで手つかずであった児童書や教育書等の文献資料を充実させるため、第一次文献収集に関しては特に17~18世紀のものは国内で利用できる電子データベースを有効に利用し、それでも不可能な文献が多数あったが、これについては国外(英国)の研究機関等で調査・研究を行った。

② 伝記や宗教書については、海外(英国)の研究機関等を中心に調査・研究を行った。

③ ①および②について、RA との共同作業により、文献の整理を行った。

(2) 次に、その文献についての調査結果を踏まえ、子どもの読者と殉教についての考察を足がかりに、西洋における殉教観がいかに形成されたかを研究した。



4. 研究成果

(1) 近代英国において出版された殉教者伝がどのように子どもの教育に利用されたかについて、また、子ども向けに書かれた殉教者伝についての分析と、子ども、特に女兒が、

どのようにこうした伝記を受容したかについて調査研究を行い、その成果を公表した。

① John Foxe, *Acts and Monuments*(1563)が近代英国社会において子どもに適した教育書と見なされ、児童推薦図書のひとつであったことを明らかにした。

② *Acts and Monuments*の児童向けの版が数多く存在したことを調査によって明らかにし、それぞれの版の特徴を研究した。

③ 幼い読者が、実際どのように①や②の殉教者伝を受容したかについて、伝記や日記などをもとに調査・研究した。

④ ヴィクトリア朝に女性の殉教者についての小説等が少女向けに出版されたことについて調査した。

(2) 数々の殉教者伝によって示された殉教という死のスタイルが、西洋人の精神形成に与えた影響について探るべく John Bunyan の *Grace Abounding* を中心に Spiritual Autobiography についての調査・研究を進め、その成果を公表した。

① 17 世紀に突如として開花したと言われる Spiritual Autobiography (キリスト教徒の回心体験を綴った回想的自伝) について、特に〈誠実〉という概念との関わりを中心に研究した。

② 伝記文学全体に占める Spiritual Autobiography の位置を考察した。

③ John Bunyan, *Grace Abounding to the Chief of Sinners*(1666)において、殉教者伝の言説がいかに深く浸透しているかを探り、獄中記であるこの自伝において、バニヤンは神に裁かれる罪人として振る舞う一方で、国教徒に迫害される受難者としての自分を演出し、殉教者伝の語彙や常套を用い、キリストを売った罪人としての自己を語りながら、その一方で不屈の殉教者としての己を浮かび上がらせている点を明らかにした。

(3) (1) および (2) の研究過程において、近代における女性の伝記、特に偉人伝研究についての着想が生まれ、今後のさらなる発展的研究へと結びつけることができた。

(4) 西洋人の死生観が如実に現れる文学ジャンルであるエレジー (Elegy) 関連の研究書の書評を、国際的学術雑誌 (*Note and Queries*, Oxford Journal) において公表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

該当なし

〔学会発表〕(計 3 件)

① 齊藤美和、John Bunyan, *Grace Abounding* についての考察、十七世紀英文学会全国大会、2013 年 5 月 24 日 (予定)、仙台ガーデンパレス

② 齊藤美和、殉教者を演じる魂—John Bunyan, *Grace Abounding of the Chief Sinner*—、十七世紀英文学会関西支部例会、2013 年 3 月 30 日、大阪肥後橋 YMCA

③ Speakers: Makiko Okamura, Saito Miwa, Sachiko Yohida, Sachiko Kuno (4 名による研究内容原稿。Okamura が代表として学会に出席・口頭発表) “Some Difficulties in Translating John Donne’ s *Biathanatos* into Japanese” in Program: Donne Studies in Languages Other than English: Text, Contexts, Translation, Criticism, and Teaching、MLA(Modern Language Association)、2011 年 1 月 9 日、Los Angeles, USA

〔図書〕(計 1 件)

① 齊藤美和、他、金星堂、『十七世紀英文学における終わりと始まり』(2013 年 5 月出版。原稿受理 2012 年 2 月 20 日)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

該当なし

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

該当なし

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

(1) 書評

① Miwa Saito, “Karen Weisman(ed.), *The Oxford Handbook of the Elegy*(2010),” *Notes and Queries*, vol.256, Sep.2011, 465-467.

<http://nq.oxfordjournals.org/content/58/3/465.full?sid=69262384-f20f-41b1-998b-9dd42ca444de>

② Miwa Saito, “Scott L.Newstok, *Quoting*

Death in Early Modern England," Notes and Queries, vol. 255, Sep.2010, 433-434.

<http://nq.oxfordjournals.org/cgi/content/full/gjn082?ikey=h0e7oNCz7XsKiQE&keytype=ref>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

齊藤 美和(SAITO MIWA)

奈良女子大学・人文科学系・准教授

研究者番号：90324962

(2) 研究分担者

該当なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

該当なし ()

研究者番号：